

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和5年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人竹の子作業所
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日(5年間)
施設設置条例	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の提供を行い、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条)※地域生活支援事業の地域活動支援センターⅢ型を実施
施設概要	開館時間午前9時30分から午後3時30分まで 休館日 土曜日、日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数243日 敷地面積:416.89㎡ 延床面積:229.67㎡ 主な施設作業室、事務室、食堂兼集会室、更衣室、トイレ
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	3,697	3,761	3,723	2,374	2,983	3,237	3,074
収入総額(円)	16,803,317	16,571,949	18,638,732	18,760,417	17,372,370	17,708,474	17,246,348
支出総額(円)	16,803,317	16,571,949	18,638,732	18,760,417	17,372,370	17,708,474	17,246,348

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
C	長期に休養等している登録者が複数いることから、目標値に達しなかった。通所がなかった利用者4名を除けば、通所利用率は約79%となっており、継続的な利用を促すことができている。

指標1

指標名(単位)	開所日1日あたりの平均利用者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し、日中活動や地域との交流に参加することにより、障害者の地域における自立した日常生活や社会生活の促進が図られるため、一日あたりの平均利用者数(年間延べ利用者÷開所日数)を成果指標とする

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(人)	14.10	14.15	15.50	15.50	15.50	15.50	15.50
実績値(人)	15.00	15.50	15.05	9.93	12.43	13.21	12.65
達成度(%)	106.4%	109.5%	97.1%	64.1%	80.2%	85.2%	81.6%

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	地域イベントへの積極的な参加や地域活動支援における新規事業の実施によって、障害者への理解促進につながったと評価できる。「利用の促進に関する業務」についてはパンフレット等で促進活動を行っているが、令和5年度も新たな利用者登録はなかった。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
相談支援	通年	言語化や表現が難しい利用者の方々について、毎日の様子を観察し、少しの変化に気付いて課題の早期発見に努めている。課題解決の為、本人や家族への助言等を行っている。	○
連絡調整	通年	利用者のサービスに関して指定相談支援事業所と情報共有をし、必要に応じて市高齢・障害者相談課や医療機関との連絡調整を行い、課題の解決に当たっている。	○
地域における連携	通年	地域の障害福祉サービス事業所、行政機関、社会福祉協議会、商工会、津久井地域包括支援センター等と連携をとり、利用者が地域でより良く生活していくためのネットワークを作っている。(地域包括支援センター主催の認知症サポーターの講座を利用者と職員共に受講し、認知症への理解を深めお互いに助け合う心を育んだ)	○
センターの機能強化義務	通年	松が丘園で実施しているサービス管理責任者相当の研修を受けた職員が個別支援計画を作成し、計画に沿って職員全員が一貫した支援に当たっている。	○
生産活動を提供する業務	通年	地元企業からの請負作業や、自主製品制作販売を行い、生産活動を通して社会に貢献している。	○
地域交流に係る業務	通年	地域行事(津久井湖湖上祭、相模原市体操祭、やまびこ祭り)に参加し、地域の方々に温かく受け入れてもらえた。 夏休みの子供向けに夏限定で「駄菓子屋さん」を開催し地域の子どもに障害者やセンターの役割の理解を広めた。 ボランティアの受け入れを常時行い交流を継続している。 津久井高等学校の介護実習生を2名受け入れ、障害者の理解を深めてもらえた。 相模原城山高校ひまわりクラブの学生を招き、学生の人形劇観覧やミニ運動会を開催し良い交流が出来た。 津久井中央ロータリークラブとプレジャーフォレストでBBQを楽しみ交流出来た。	◎
地域活動支援	通年	「駄菓子屋さん」「つくい手作りマルシェ」の行事では施設を開放し、利用者が地域の方々へ向けて生き活きと販売・接客を行った。「駄菓子屋さん」は子供が夏休みの期間に合わせ夏限定で開催し、地域の子どもや大人が気軽に訪れる機会を作り、障害者やセンターの役割の理解を広めた。「つくい手作りマルシェ」は利用者が手がけた自主製品(刺し子、ガーゼハンカチ、マグネット等)を利用者自身が販売した。地域の行事となれるよう「つくい」を名前に入れ、沢山の地域住民が施設へ訪れる機会となった。また、防災訓練として5月に土砂災害を想定し、避難場所である中野中までの避難訓練を行った。11月に厚木防災センターへ行き、地震・風水害の体験を行い経験することで防災意識を高めた。通年、小さな地震が起きた際には机に潜ることを徹底するなど日頃から訓練を重ねた。	◎

センターの在り方の検討	通年	利用者・保護者の声に向き合い、加齢と共に変化するサービス内容の変化に対応するべく障害福祉サービスへの移行も視野に法人理事会を重ね、相模原市と協議した。	○
施設等の維持管理に関する業務	通年	各種設備の保守点検、備品等の管理、光熱水費（電気、ガス、水道、下水道）の管理	○
その他センターの運営に関する業務	通年	利用の制限等、入所の制限、休所日を定めること、休所日を開所日とすること及び利用できる時間の変更に関する業務	○
利用の促進に関する業務	通年	津久井支援学校の行事「つながりフェスティバル」へ参加し、利用者のダンスで活き活きした様子を披露し施設パンフレットを配布し新規利用者獲得の為にPR活動に努めた。その他、地域行事に参加することは施設PRとして努めた。	△

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
(なし)			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
調理実習	毎月	利用者が当番となり調理支援を行っている。出来上がった料理を仲間と頂く楽しい時間を提供出来た。	○
たけのこカフェ	毎月	喫茶店のように利用者がホッと出来るような空間を作り、貼り絵や絵画・読書・映画鑑賞などのレクリエーションも楽しめた。	○
地域交流行事	通年	相模湖やまなみ祭(4月)津久井中央ロータリークラブとバーベキュー(6月)福前健康体操発表会(6月)津久井支援学校つながりフェスティバル(7月)やまびこ祭り(10月)つくい湖湖上祭(11月)相模原市体操祭(11月)相模原城山高校ひまわりクラブを招いてミニ運動会(1月)たくさんの地域交流が出来た。	◎
日帰り研修旅行	9月	サンリオピューロランドへ。社会人としての嗜みやマナーを学び、楽しんでいただくことが出来た。	○

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	令和5年度アンケート調査では、「職員の対応はどうか」という問いに対し「とてもよい (8票)」「良い (4票)」「ふつう (2票)」であった。回答者全員から良い回答を得ていることから、個々の利用者に向けた支援等ができていていると評価できる。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	利用者15名に対して令和6年3月にアンケートを実施/サンプル数14件
目標値の基準	「職員の対応はどうか」との問いに対する5段階のうち「とても良い」「良い」「ふつう」と回答した方の割合

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	91.1	91.7	92.3	92.9	93.5	94.1	94.7
実績値 (%)	80.0	85.0	92.3	93.8	93.8	100.0	100.0
達成度 (%)	87.8%	92.7%	100.0%	100.9%	100.3%	106.3%	105.6%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
利用者モニタリング	毎月・適時	毎月モニタリングを実施している。利用者の要望がある時は適時傾聴の場を設けるなどの支援を行い、利用者のメンタルヘルスケアを行った。
意見箱	常時設置	言葉で伝えにくい内容について、意見箱への投函を積極的に進め、サービス向上へ反映させた。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
D	施設の収支は赤字であり、また、法人の決算書 (活動計算書) において人件費 (法定福利費) の大幅な増加など、重大な懸念が認められる。

施設の収支概要		※直近3年間について記載 (千円)		
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入 (a)		16,370	17,078	16,856
指定管理料		15,331	15,980	16,122
利用料金収入		0	0	0
その他の収入		1,039	1,098	734
支出 (b)		16,823	17,357	17,660
人件費		12,937	13,255	13,671
本社管理経費		770	688	649
その他の支出		3,116	3,414	3,340
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)		-453	-279	-804
自主事業収入 (d)				
自主事業支出 (e)				
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)		0	0	0
全体収支 [(c)+(f)]		-453	-279	-804
備考	全体収支の赤字分は、過去からの繰越金により充当している。			

団体の財務状況	団体本体の経営状況について重大な懸念がある。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地確認及びヒアリング
実施時期	令和5年12月14日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	無
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

生産活動として地元企業から受注された内職作業を行い、駄菓子屋さん・つくい手作りマルシェの売上も工賃へ加え年間工賃として519,656円(通所者1人あたり2,309円/月)支払うことが出来た。

高齢化した利用者は内職作業がだんだんと辛くなってきているが、それぞれのペースに合わせて出来ることを提供し、モチベーションを保ちながら作業に取り組めるよう工夫をしている。

余暇活動として、お花見・あじさい見学・クリスマス会・お正月のお茶会等で利用者が季節を感じている。毎月の調理実習やカフェは利用者が当番となって料理や配膳、仲間と美味しいものを食べる喜びを感じられた。また、地域行事(津久井湖湖上祭、相模原市体操祭、やまびこ祭り)に参加し、地域の方々に温かく受け入れてもらっている。

社会福祉協議会で紹介して頂いた「ちょこっとボランティア」の方々、学生のボランティアも毎月定期的に来所してもらい交流を継続している。相模原城山高校ひまわりクラブとの繋がりも出来た。人との関わりが利用者の生活に潤いを増している。

加齢と共に衰えゆく体力維持を目的として福前健康体操を月2回行い、練習の成果を発表する場所があることは利用者にとって生きがいであり、健康維持へ貢献できている。

高齢化する利用者とその家族の困りごとに気付き寄り添えるよう見守り、必要であれば関連機関へ結びつけ連携を取る等、安心安全を提供している。

10 所管課意見

- ・地域交流行事に積極的に参加し地域への障害者理解促進に貢献しながら、季節行事や調理実習などで利用者が楽しみを持てる事業を行い利用者満足度が高いことが評価できる。
- ・平成27年度を最後に新規の利用者がいない状況が続いている。仮に障害福祉サービスに移行しても新規の利用者がいないと事業の継続は困難であることから、令和6年度からの新たな指定管理者による指定管理期間においても、積極的な広報・PR活動を行うとともに新規の利用者に向けて魅力ある施設運営を検討することを求める。
- ・法人の経営状況の確認を通して、会計管理に懸念が認められた。本課としても、指定管理者の経営状況について今後も注意して確認していく。

11 選考委員会意見

- ・過去の決算の修正について説明ができなかったことを踏まえると、そのほかの数字や資料についても疑念を持たざるを得ない。令和6年度からの新たな指定管理者においては、裏付けのある決算をしていただきたい。市には、法人の会計管理について疑いを持って確認するという視点を持ってほしいと考える。
- ・満足度調査について、5段階で「とても良い」「良い」「ふつう」という回答を満足していると捉えているが、5段階だと真ん中を選ぶことが考えられる。また、「ふつう」を満足と捉えるかどうかについても疑問がある。次回から、回答項目について検討してほしい。
- ・利用者の高齢化は課題だと考える。ホームページがないということだが、ホームページなどがあれば若い方に利用してもらうことにつながるのではないかと考える。対外的な発信は重要なことだと考える。ホームページでなくても、活動の発信については工夫していただきたい。
- ・現地を見て、利用者の方が一生懸命作業されていて、すごくいい雰囲気であった。展示物もきれいに飾られ、利用者が明るく楽しそうな様子がうかがえた。地域交流などを積極的に行っているところはとてもいい。地域の中に居場所ができ溶け込んで暮らしていける拠点になるといいと感じた。
- ・権利擁護の観点から考えると、同性の介助というのは必須だと考える。給与の面で男性職員が雇用できていないとのことだったが、課題としていただきたい。

総合評価 (自動判定)

C

(50/100)

